

医療版事故調・緊急公開シンポジウム 「医療事故の再発防止, 医療と患者の 信頼関係の確立をめざして」

去る8月4日、千代田区駿河台の明治大学アカデミーホールにて、医療安全調査委員会(以下、委員会)設置に向けた厚生労働省作成の大綱案発表を受けて「医療版事故調: 緊急公開シンポジウム」が開催された。出席したシンポジストは、佐原康之氏(厚労省総務課医療安全推進室長)、古川俊治氏(自民党参議院議員、弁護士、医師)、勝村久司氏(患者の視点で医療安全を考える連絡協議会準備会)、瀬尾憲正氏(自治医科大学教授)、清水真氏(明治大学法科大学院刑事法学教授)、木下正一郎氏(医療問題弁護団)、鈴木利廣氏(すずかけ法律事務所)の7名。

まず佐原氏が、委員会設置に至るまでの経緯と背景、そして大綱案に先立つ第3次試案と大綱案の関係について説明。この大綱案は法律に関する項目だけをピックアップしたあくまで法令としての具体的なイメージだと語り、加えてここで強調したのは以下の3点。まず1点目が、医療事故発生時に医療機関から患者・家族へ事故の経緯や原因などについて十分な説明がなされることの重要性。2点目は、日常診療の時点での医療従事者・患者間の十分な関係構築のための対話の促進。この点については、こうした対応を専門的に行なう人材の配置についても付言した。3点目は調査委員会と捜査機関との関係、なかでも刑事手続の対象を故意や重大な過失、悪質な事例にのみ事実上限定する、というものである。

続いて木下氏が大綱案・第3次試案と民主党案の相違点について発表。事故調査組織を大綱案では「医療安全調査委員会」、一方、民主党案では「医療安全支援センター」とし事故再発防止は別個の事故等分析事業が行なうことを強調した。

注目される医師法21条については、大綱案は「ただし書きを設けた上での

改正(事実上医療事故は警察への届出対象のまま)」だが、民主党案では「医師法21条自体を削除」としており、ここが最大の特徴の1つでもある。届出範囲、届出義務違反への対応などについては大綱案が「死亡例」のみに限定するのに対し民主党案では「(高度障害が残った場合も含む)すべて」となっておりこの点も大きな相違点と言える。

次に古川氏が「医療安全調査委員会設置法案に関する一考察」と題して、法案設置提起の際に交わされた「異状死問題に関する議論の経過」を振り返り、求められる医療事故報告制度とその際に解消されるべき課題と現状、第3次試案に対する意見で挙げられた問題点など多岐に渡る内容で報告。また第3次試案と大綱案の間に横たわる矛盾点や病院における「死」の定義についても再考を促す分類を発表した。氏は最後に「医療従事者が中心になる制度であり、一刻も早い制度の確立が必要とされる」と強く主張した。

次には患者側から勝村氏が自身の体験と最近の医療裁判での争点と議論をもとに、患者が医学と医療に求める「本当のインフォームドコンセント」「本当のリスクマネジメント」などについて発表。枚方市民病院の改革の取り組みなども紹介し、医療者への信頼回復と医療界の健全さを保つためにも一刻も早く委員会が設置されるべきと主張した。

瀬尾氏は麻酔科医の立場から医療事故、委員会への提言を行なった。「麻酔行為自体が可逆的な生命を脅かす処置」であるという視点から、厚労省の麻酔科医不足対策の不十分さ(麻酔科医の標榜医枠外しなど)を指摘し、大綱案とも民主党案とも異なる意見として、委員会への届出目的はデータバンク化と調査症例の絞り込みのためだと指摘した。最後には医療事故の際の行

政処分を行なう主権団体として「医療行為を行なう医師全員が強制加入する職能団体」こそ必要であり、その立法化を急ぐべきだと締めくくった。

最後に、清水氏が刑事法の立場から「医療事故と刑事手続」というテーマで医療事故と刑事責任をめぐる従来の問題点、そして英米刑事法と医療事故について発表した。氏は刑事判断を下す際に根拠とされる医師法21条自体が構成要件がわかりにくいものであると説明。さらに英米法系では重過失のみが犯罪として定義され、大半の医療事故は犯罪性のないものとして扱われると紹介し、将来的には医療事故がすべて刑事免責される可能性があると報告した。

その後、会場との質疑応答、ディスカッションとなったが、医療事故、裁判の当事者からの早期設置を願う声と、医療従事者からの徹底したパブリックコメントを反映した形での委員会設置がなされるべきという声など強い意思をもった主張が相次ぎ、関心の高さを改めて認識させられた。しかしながらかつての医療事故でも、当事者になってしまった医療者側からの意見や主張は相対的に少なく、医療者全体に関わる大きな問題であることから、全国民を巻き込んだ議論が今一度必要とされるのではないだろうか。

●本誌編集室



大勢の聴衆を集めたシンポジウム